

令和6年度 岡山大学教育学部附属特別支援学校 学校評価書

学校教育目標	〇小学部・中学部・高等部の課程を通して、調和のある一貫した指導を行い、児童生徒の全人的な発達を促し、主体的に社会生活に参加できる人間の育成を目指す						
めざす子ども像	(小学部) 基本的な生活習慣を身に付け、興味関心を広げ、意欲的に取り組む児童 (中学部) 他者と関わりながら、生活経験を拡大し、主体的に社会参加しようとする生徒 (高等部) 目的達成に向け、課題を解決しながら、自分のもてる力を最大限に発揮し、取り組む生徒						
第四期中期目標	「地域のモデル」となりうる、現職教員研修の地域拠点としての人材育成機能を備えた、教員の確かな養成主体としての附属学校園						
校長	竹本 俊哉	学級数	9学級	児童生徒数	58人	教職員数	29人
学校関係者評価委員	赤井藤子 宇佐美英司 宮野美保子 堀部淑恵 山内寿子 大竹喜久 水上加寿子						

【1. 前年度の評価と課題を踏まえた現状分析】

① 授業改善・児童生徒理解	実態の多様性から、適切な実態把握に基づく目標や支援方法の設定やすべての児童生徒が主体的に学ぶことのできる授業づくりの工夫、改善がより強く求められている。また、継続して登校することができにくい児童生徒や社会性に関わる課題の多い児童生徒に対する指導が課題の一つとなっている。個々の学びに向かう姿や自立する姿を具体的に描くこと、及びそれを本人や教職員、保護者と共有することの難しさが見られる。	会、研究発表会等) の取り組みを充実させ、小学校や中学校、高等学校も含めた地域における特別支援教育の中心的な役割を果たすことが強く求められている。また、岡山大学教育学部において、教職を目指す学生は5割程度にとどまっている現状において、教職の魅力を実感できる教育実習の充実が求められている。
② 教育研究・小中高一貫教育	教職員は大変熱心で意欲的に職務に励み、日々の授業改善にも誠実かつ前向きに取り組んでいる。コロナ禍で小集団での活動が主流になった影響もあり、一人ひとりの児童生徒を全教職員で指導・支援していく体制づくりや小・中・高の教育活動に関わる一貫性のある連携が課題である。現在「チームで取り組む自立活動の指導」をテーマに共同研究に取り組んでいる。	④ 保護者・地域連携 学校自己評価の結果、教育活動に対する保護者の評価は全体として肯定的であるが、児童生徒の手本となる教職員のよりよい言動や教育情報の確実な引継、将来の生活を踏まえた専門性の高い授業や支援、情報の共有などの努力が求められている。コロナ禍で停滞した地域や大学等の設備や人材等の効果的な活用が課題の一つである。
③ 教師教育・教員研修	学部や地域との連携により、地域の特別支援教育に関わる教育課題に資する教育研究に取り組む、その成果を地域に還元するとともに、地域の特別支援教育に関わる現職教員研修（体験型教員研修、授業づくり研修	⑤ 環境整備・安全管理・業務改善 防災教育を含む危機管理体制の整備と地域を巻き込んだ組織的教育実践等に課題がある。また、時間外勤務時間数は減少傾向にあるものの、会議や研究活動、教育実習生指導等の業務により、日々の授業準備時間の捻出に苦慮している現状があり、具体的な働き方改革の提案が必要である。

【2. 自己評価】

評価領域	重点課題	具体的方策	成果指標・評価基準	達成状況の分析	評価
① 授業改善・児童生徒理解	適切な実態把握に基づく目標や支援方法の設定	〇児童生徒の実態及び本人・保護者の願いに基づいた「個別の指導計画」の作成 〇効果的・効率的な自立活動検討会の実施	教職員・保護者アンケート3の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員・保護者ともに90%以上。適切な実態把握の下、保護者と合意しながら、目標や支援方法の設定の実施ができています。	4
	主体的・対話的で深い学びを実現した授業づくり	〇児童生徒の実態や思考の流れ、興味関心に基づいた指導内容の配列や授業展開の工夫 〇学び合いの場、方法の工夫 〇TTによる連携	教職員・保護者アンケート4の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員・保護者ともに90%以上。TTで連携、工夫し、子どもが主体となり、対話の中で学びを深める授業づくりを実施している。	4
	指導と評価の一体化に基づく授業改善	〇一人ひとりの学習状況の把握 〇学習評価に基づく指導の改善と充実 〇学期末・学年末における評価の総括	教職員・保護者アンケート5の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員・保護者ともに90%以上。適切な評価と指導改善を実施。身に付けた力を保護者へ分かりやすく説明をしている。	4
小中高一貫教育 ② 教育研究・	目的をもった実践の積み重ねによる共同研究の推進	〇発達支援室との指導の連携 〇研究推進係会と学部をつなぐ、効果的な研究会の実施 〇ICTを活用した記録と情報共有	教職員アンケート15の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員83%。効率的に情報共有し、効果的な指導実践が成果。目指す方向性を適宜確認し、部間のズレを修正しながら実践を重ねた。	3
	小・中・高の教育活動に関わる一貫性のある連携	〇「個別の指導計画」等の効果的な活用による学部内・学部間連携 〇12年間の連続性のある教育の充実 〇卒業後の生活を踏まえた家庭との連携	教員アンケート16・保護者アンケート15・16 肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員83%、保護者86%。担任裁量による単年指導ではなく、12年間の連続性・発展性のある指導を保護者にも分かるよう要明確化	3
③ 教師教育・教員研修	教職員の人権意識の涵養	〇校内ルールの遵守 〇同僚性を大切にした学校経営 〇コンプライアンス研修の実施	教職員・保護者アンケート6の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員・保護者とも90%以上。引き続き、校内ルールを徹底し、高い人権意識をもって児童生徒に接していく。	4
	現職教員研修の取組の充実	〇授業づくり研修会の充実 〇体験型教員研修の充実と広報 〇教育実習生指導を通じた指導力・授業実践力の向上	教職員・保護者アンケート7の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員89%・保護者90%。現職教員研修や教育実習生指導、研究実践を通じて、専門性の向上を目指す。要研修時間の確保。	3
	教職の魅力を実感できる教育実習の充実	〇児童生徒理解に基づく教材づくりや指導の機会の充実 〇成長を実感できる担任指導・実習懇談 〇実習生負担軽減のため勤務時間一部短縮	教職員アンケート17の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員100%。教職員の姿、児童生徒とのかわわり、丁寧な担任指導により、教職を志す学生の増加。	4

【3. 学校関係者評価】

取組状況に対する意見・要望等	評価
教職員・保護者ともに、児童生徒の実態把握や指導・支援、授業内容への満足度が高く、児童生徒の成長や課題に対して合意形成ができています。丁寧な実態把握に基づく教師同士の連携による質の高い授業づくりの継続をお願いしたい。 発達や経験に応じ、児童生徒が主体となり、繰り返しの対話の中で気付きを得て深い学びにつながる授業づくりや授業評価に基づく授業改善については、附属の役割として更なる深化に期待していきたい。	4
研究発表会の参加者が多く、ニーズに沿った研究となっている。課題は次年度に解決を。共同研究を通してチーム力の向上にも期待したい。 児童生徒それぞれの自立・社会参加を目指し、12年間の系統性・連続性・発展性のある教育の充実に力を入れてほしい。学部間や家庭との連携のためにできる情報共有や確認のためのひと工夫が必要である。	3
昨年度の課題であった教師の人権意識の向上は評価できる。引き続き、人権感覚を磨き合う教職員集団づくりを行ってほしい。 参加者のニーズに沿った研修企画、双方向体験研修やzoomなど参加しやすい工夫の継続を。研修企画・参加や教育実習指導は教師の指導力向上につながっている。教師は辛めの自己評価となっている。研修時間の確保には工夫が必要である。教職の魅力を実感できる、丁寧で熱意ある教育実習指導に感謝。	4

携 等	④保護者連携・地域連	保護者との連携を密にした、教育活動の充実 ○保護者相談への丁寧な対応 ○意見を反映した、よりよい学校づくり ○通信の発行や HP、Instagram 及び Facebook 等の充実、広報	教職員・保護者アンケート 8・9 の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員 89%、保護者 92%。Instagram の開設等により、保護者の肯定回答増。新たな取り組みや変更への丁寧な説明は必要。	3	情報発信や丁寧な対応に対する保護者の評価は、昨年度より向上し、情報発信の工夫は評価できる。効果的な外部人材の活用や学校間交流に対する保護者満足度も高い。SNS は発信時に十分な確認を。新しい取組や変更事項は、計画的かつ丁寧な説明が信頼構築には重要。	3
	地域や岡山大学、関係機関等との連携の充実	○附属小との学校間交流や居住地校交流 ○附属幼稚園や地域協力による販売学習 ○地域や大学の外部講師による出前授業 ○関係機関と連携しながらの生徒指導等	教職員・保護者アンケート 10・11 の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員 82%、保護者 93%。外部連携による生徒指導等においては、校内教職員間での情報共有が必要。外部講師活用授業は増加。	3		
⑤環境整備・安全管理・業務改善	居心地の良い魅力ある学校づくり	○多様性や互いの良さを認め合う学級経営 ○いじめを生まない学級集団づくり ○SDG s の取組の充実	教職員・保護者アンケート 1 の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員・保護者ともに 90%以上。温かい集団づくりができている。不登校傾向の生徒へのオンラインも含め、継続的に働き掛けている。	4	児童生徒の学びやすさや安全を最優先した教室環境や必要な合理的配慮の引き継ぎは、教室内の居心地のよさにつながる重要な視点。児童生徒を中心に据えた教室環境の見直しや再確認を実施してほしい。	3
	校内の教育環境の美化・整備と改善	○主体的行動を引き出す教室環境の工夫 ○校内安全チェック体制の整備と補修 ○定期的な校内美化作業	教職員・保護者アンケート 2 の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員 82%、保護者 92%。教職員間では改善必要な項目。刺激量に配慮した教室環境や視覚支援の用意等引き続き改善を行う。	3	また、欠席しがちの児童生徒への学習保障にひと工夫が必要である。備蓄物品の購入や防災かばんの持ち込み、防災学習の推進等、校内の危機管理体制や意識が進んだ。保護者や教職員、児童生徒の声を聞いてブラッシュアップしてほしい。	
	校内危機管理体制の整備	○校内に危機管理等対応委員会の設置 ○防災かばんの持ち込み整備 ○熱中症事故防止・感染症の校内指針 ○個人情報情報の適正な管理	教職員・保護者アンケート 12・13 の肯定的回答 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員・保護者ともに 90%以上。防災かばんの持ち込みなど新しい取組へ理解と協力あり。備蓄物品の整備も進んだ。	4	働き方改革については、単に時間の削減を目指すだけでなく、働き甲斐や意欲につながる改革を行ってほしい。学校の果たすべき、児童生徒の発達を促す、質の高い授業や児童生徒支援が最優先業務で、そのための時間の確保が必要である。保護者は協力的であり、丁寧な説明を行い、理解を得るようにしたい。	
	業務の見直しと効率化を通じた働きやすさの改善	○月 1 回以上の定時退校日の設定 ○Teams 等を活用した業務の効率化推進 ○業務内容の見直しや委託 ○同僚性のある職場の雰囲気づくり	教職員・保護者アンケート 14 肯定的回答、教職員アンケート 18 の肯定回答参考 4 (90%以上)、3 (75%以上) 2 (60%以上)、1 (60%未満)	アンケートの肯定回答は、教職員 68%、保護者 74%。教職員間の同僚性ある職場ではあるものの (94%)、働き方改革については更なる対策必要。PTA 活動については、負担軽減を実感はあるものの、活動内容や役員選出についての工夫を求められている。	2		

【4. 総括と次年度の重点課題】

■総括 教職員は熱意と意欲をもって協力的に業務を遂行し、児童生徒や保護者に誠実に対応している。重点目標は概ね 8 割以上の達成状況にある。特に、昨年度末課題として挙げられていた、「教職員の人権意識の向上」「情報発信」「防災への取組」については、大幅に改善が見られた。「教師の専門性の向上」についても、日々の授業実践や学級経営、丁寧な教育相談や現職研修、教育実習指導を通して、実践的指導力の向上に努め、高い評価も得ている。共同研究のテーマは、ニーズに即し注目が高い。各校の自立活動の充実に寄与できるよう、最終年度に向けて教育実践の成果のまとめが期待されている。 1 2 年間のキャリア発達の視点をもった継続的な指導支援の充実や「主体的・対話的で深い学び」となる先導的な教育実践・授業研究、学校運営に係る丁寧な保護者説明、危機管理体制及び働き改革についての更なる推進が求められている。	■次年度の重点課題（※大学への要望を含む） 1 自立と社会参加を目指した教育の推進 (1) 児童生徒の「思い」「願い」を大切にし、主体的に活動できる教育の推進 (2) 大学・家庭・地域・関係機関との連携によるキャリア教育の充実 (3) 児童生徒の学びを深める授業力・専門力の向上 2 安心安全で健康的な学校生活の充実 (1) 居心地の良い教室環境の整備 (2) 命を守る教育の推進と自己対応力の醸成 (3) 生き生きとした活力ある職場づくり 3 特別支援教育の充実に貢献する取組の推進 (1) 大学と連携した取組の推進 (2) 積極的な情報発信
---	--